



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年1月27日

上場取引所 東

上場会社名 第一工業製薬株式会社

コード番号 4461 URL <https://www.dks-web.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 坂本 隆司

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理統括 (氏名) 河村 一二 TEL 075-323-5822

四半期報告書提出予定日 2022年2月8日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無：無

四半期決算説明会開催の有無：有（個人投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年12月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	46,697	7.6	3,725	25.0	3,290	17.0	1,860	12.0
2021年3月期第3四半期	43,380	△6.0	2,980	5.1	2,813	2.3	1,661	5.1

（注）包括利益 2022年3月期第3四半期 2,705百万円（△1.6％） 2021年3月期第3四半期 2,748百万円（61.4％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	182.77	—
2021年3月期第3四半期	163.29	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第3四半期	84,465	39,391	42.6	3,532.51
2021年3月期	85,033	37,404	40.7	3,405.28

（参考）自己資本 2022年3月期第3四半期 35,974百万円 2021年3月期 34,648百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	35.00	—	35.00	70.00
2022年3月期	—	35.00	—	—	—
2022年3月期（予想）	—	—	—	35.00	70.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	61,500	4.0	5,100	13.7	4,800	11.3	3,400	32.6	334.16

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P.8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	10,684,321株	2021年3月期	10,684,321株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	500,351株	2021年3月期	509,423株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	10,180,936株	2021年3月期3Q	10,173,097株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(四半期連結損益計算書関係)	8
(セグメント情報等)	9
(収益認識関係)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が進み、重症化率は下がったものの、新たな変異株の脅威が拭い切れず、回復基調とはいえ依然として厳しい状態が継続しています。足元では、原油ナフサや原材料価格の高騰が継続中であり、半導体をはじめとする部材不足や物流遅延などが追い打ちをかけ、先行きの不透明感が高まっています。

このような状況のもと、当社グループは中期経営計画「FELIZ 115」2年目の最終コーナーに入り、当初目標に掲げていた不採算事業の整理をはじめとする事業ポートフォリオの見直しや利益体質の改善が進みました。計画3年目となる4月からは、先行投資の刈り取りとライフサイエンス事業の早期実績化に努め、着実に飛躍する所存です。

当第3四半期連結累計期間の業績といたしましては、『機能材料』セグメントの光硬化樹脂用材料は大きく落ち込みましたが、『電子デバイス材料』セグメントの太陽電池用途の導電性ペーストが大幅に伸長しましたことにより、売上高は466億97百万円（前年同期比7.6%増）となりました。

損益面につきましては、営業努力による価格是正の効果が『界面活性剤』セグメントを中心に顕著となり、『機能材料』セグメントを除く他の5つのセグメントが増収を達成し、営業経費の増加も抑えられたことにより、営業利益は37億25百万円（前年同期比25.0%増）、経常利益は32億90百万円（前年同期比17.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は18億60百万円（前年同期比12.0%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

<界面活性剤>

界面活性剤の売上高は、総じて大幅に伸長しました。

国内では、ゴム・プラスチック用途、土木・建築用途は低調に推移しましたが、IT・電子用途、塗料・色材用途は堅調に推移しました。石鹼・洗剤用途は大幅に伸長しました。

海外では、繊維用途、ゴム・プラスチック用途は堅調に推移しました。

その結果、当セグメントの売上高は139億19百万円（前年同期比8.9%増）となりました。

営業利益は、販売価格の是正や営業経費の削減により20億14百万円（前年同期比69.7%増）となりました。

<アメニティ材料>

アメニティ材料の売上高は、総じて大幅に伸長しました。

国内では、セルロース系高分子材料は食品用途が低調に推移しましたが、医薬品用途は堅調に推移し、エネルギー・環境用途は大幅に伸長しました。シヨ糖脂肪酸エステルは香粧品用途が低調に推移しましたが、食品用途は堅調に推移しました。

海外では、シヨ糖脂肪酸エステルは香粧品用途が堅調に推移し、食品用途は大幅に伸長しました。

その結果、当セグメントの売上高は59億58百万円（前年同期比13.4%増）となりました。

営業利益は、売上高の伸長や営業経費の削減により4億27百万円（前年同期は83百万円の利益）となりました。

<ウレタン材料>

ウレタン材料の売上高は、総じて大幅に伸長しました。

自動車関連分野の回復からフロム規制に関連する環境配慮型の合成潤滑油は大幅に伸長し、公共工事に関連する土木用薬剤も大幅に伸長しました。

機能性ウレタンは建築用途等が低調に推移しましたが、IT・電子用途が堅調に推移しました。

その結果、当セグメントの売上高は63億34百万円（前年同期比21.3%増）となりました。

営業利益は、売上高の大幅な伸長や研究開発の効率化などによる経費圧縮により41百万円（前年同期は3億62百万円の損失）となりました。

<機能材料>

機能材料の売上高は、総じて大きく落ち込みました。

国内では、水系ウレタンは繊維用途が大幅に伸長し、IT・電子用途は堅調に推移しましたが、光硬化樹脂用材料はIT・電子用途が大きく落ち込みました。

海外では、難燃剤はゴム・プラスチック用途が大幅に伸長し、光硬化樹脂用材料はIT・電子用途が大幅に伸長しました。

その結果、当セグメントの売上高は143億86百万円（前年同期比9.2%減）となりました。

営業利益は、売上高の大きな落ち込みに加え、研究開発費を中心に営業経費がかさみ10億44百万円（前年同期比

51.9%減)となりました。

<電子デバイス材料>

電子デバイス材料の売上高は、総じて大幅に伸長しました。

ディスプレイ用途のイオン液体は低調に推移しましたが、太陽電池用途の導電性ペーストが大幅に伸長しました。

その結果、当セグメントの売上高は57億50百万円(前年同期比44.2%増)となりました。

営業利益は、売上高の大幅な伸長や営業経費の削減により5億85百万円(前年同期比132.8%増)となりました。

<ライフサイエンス>

ライフサイエンスの売上高は、前年同期と比べ52百万円増加し、3億48百万円(前年同期比17.9%増)となりました。医薬品添加物や天然素材からの抽出物の濃縮化、粉末化による健康食品等の受託事業は堅調に推移しました。

営業利益は、売上高の伸長はありましたが、研究開発費を中心に営業経費がかさみ3億87百万円の営業損失(前年同期は3億50百万円の損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は444億6百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億8百万円増加しました。これは主に現金及び預金が20億86百万円減少したものの、電子記録債権が7億84百万円、商品及び製品などの棚卸資産の合計が11億48百万円増加したことなどによるものです。固定資産は400億59百万円となり、前連結会計年度末に比べ9億75百万円減少しました。これは主に建物及び構築物などの有形固定資産の合計が7億30百万円、投資有価証券が2億91百万円減少したことなどによるものです。

この結果、総資産は844億65百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億67百万円減少しました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は230億19百万円となり、前連結会計年度末に比べ9億48百万円増加しました。これは主に支払手形及び買掛金が15億66百万円増加したことなどによるものです。固定負債は220億54百万円となり、前連結会計年度末に比べ35億2百万円減少しました。これは主に長期借入金が32億55百万円減少したことなどによるものです。

この結果、負債合計は450億74百万円となり、前連結会計年度末に比べ25億54百万円減少しました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は393億91百万円となり、前連結会計年度末に比べ19億86百万円増加しました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益18億60百万円及び剰余金の配当7億12百万円などにより利益剰余金が11億32百万円増加したことなどによるものです。

この結果、自己資本比率は42.6%(前連結会計年度末は40.7%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2021年5月13日付で公表いたしました通期の連結業績予想からの変更はありません。

なお、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,595	9,509
受取手形及び売掛金	15,413	15,780
電子記録債権	1,453	2,238
商品及び製品	8,928	10,440
仕掛品	22	20
原材料及び貯蔵品	4,297	3,935
前払費用	278	347
その他	2,022	2,140
貸倒引当金	△13	△6
流動資産合計	43,997	44,406
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	14,059	13,648
機械装置及び運搬具(純額)	5,827	5,694
工具、器具及び備品(純額)	635	754
土地	9,273	9,534
リース資産(純額)	3,203	2,881
建設仮勘定	1,318	1,072
有形固定資産合計	34,317	33,586
無形固定資産		
のれん	363	250
その他	470	416
無形固定資産合計	833	667
投資その他の資産		
投資有価証券	4,372	4,080
長期貸付金	18	16
長期前払費用	140	115
繰延税金資産	195	144
退職給付に係る資産	841	1,143
その他	323	310
貸倒引当金	△6	△6
投資その他の資産合計	5,884	5,805
固定資産合計	41,035	40,059
資産合計	85,033	84,465

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,404	10,971
電子記録債務	423	508
短期借入金	6,698	6,788
リース債務	598	561
未払費用	302	301
未払法人税等	700	293
未払事業所税	41	31
賞与引当金	753	437
廃棄物処理費用引当金	375	109
その他	2,773	3,018
流動負債合計	22,071	23,019
固定負債		
社債	6,000	6,000
長期借入金	15,831	12,575
リース債務	2,978	2,651
繰延税金負債	305	398
退職給付に係る負債	116	98
資産除去債務	73	74
その他	251	255
固定負債合計	25,556	22,054
負債合計	47,628	45,074
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,895	8,895
資本剰余金	7,267	7,278
利益剰余金	18,733	19,866
自己株式	△1,040	△1,021
株主資本合計	33,856	35,018
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	484	200
為替換算調整勘定	24	352
退職給付に係る調整累計額	282	402
その他の包括利益累計額合計	791	956
非支配株主持分	2,756	3,416
純資産合計	37,404	39,391
負債純資産合計	85,033	84,465

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	43,380	46,697
売上原価	32,348	34,741
売上総利益	11,031	11,955
販売費及び一般管理費	8,051	8,230
営業利益	2,980	3,725
営業外収益		
受取利息	2	5
受取配当金	43	39
持分法による投資利益	44	43
その他	78	89
営業外収益合計	168	178
営業外費用		
支払利息	151	140
社債利息	28	28
休止設備関連費用	—	333
その他	157	110
営業外費用合計	336	613
経常利益	2,813	3,290
特別利益		
廃棄物処理費用引当金戻入益	—	139
特別利益合計	—	139
特別損失		
固定資産処分損	121	164
投資有価証券評価損	—	33
特別損失合計	121	198
税金等調整前四半期純利益	2,691	3,231
法人税、住民税及び事業税	549	759
法人税等調整額	211	158
法人税等合計	760	918
四半期純利益	1,930	2,312
非支配株主に帰属する四半期純利益	269	452
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,661	1,860

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	1,930	2,312
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	847	△284
為替換算調整勘定	△4	522
退職給付に係る調整額	△21	121
持分法適用会社に対する持分相当額	△3	32
その他の包括利益合計	817	392
四半期包括利益	2,748	2,705
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,471	2,024
非支配株主に係る四半期包括利益	276	680

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当連結会計年度の第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。

これにより、当社の輸出販売については、従来、主に船積時に収益を認識しておりましたが、インコタームズ等で定められた貿易条件に基づきリスク負担が顧客に移転した時点で収益を認識する処理に変更しております。

また、売上リベート等の顧客に支払われる対価については、従来、販売費及び一般管理費として処理する方法によっていましたが、取引価格から減額する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取り扱いに従っており、当連結会計年度の第1四半期連結会計期間より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

当該会計基準の適用が四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取り扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(四半期連結損益計算書関係)

当第3四半期連結累計期間における休止設備関連費用は、四日市工場千歳地区の光硬化樹脂用材料製造設備の生産を停止した期間に係る固定費等であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	界面活性剤	アメニティ材料	ウレタン材料	機能材料	電子デバイス材料	ライフサイエンス	合計
売上高							
外部顧客への売上高	12,777	5,256	5,220	15,842	3,987	295	43,380
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	12,777	5,256	5,220	15,842	3,987	295	43,380
セグメント利益又は損失(△) (営業利益又は営業損失)	1,187	83	△362	2,171	251	△350	2,980

(注) 報告セグメント利益又は損失の合計金額と四半期連結損益計算書の営業利益は一致しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	界面活性剤	アメニティ材料	ウレタン材料	機能材料	電子デバイス材料	ライフサイエンス	合計
売上高							
顧客との契約から生じる収益	13,919	5,958	6,334	14,386	5,750	348	46,697
外部顧客への売上高	13,919	5,958	6,334	14,386	5,750	348	46,697
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	13,919	5,958	6,334	14,386	5,750	348	46,697
セグメント利益又は損失(△) (営業利益又は営業損失)	2,014	427	41	1,044	585	△387	3,725

(注) 報告セグメント利益又は損失の合計金額と四半期連結損益計算書の営業利益は一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当連結会計年度の第1四半期連結会計期間の期首から適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に変更しております。

この変更による当第3四半期連結累計期間のセグメント利益又は損失への影響は軽微であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。